

受講番号 19080 学校名 大豊中学校 氏名 福留 雅子

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 2年生 生徒数 17名
 科目名 2年生 単位数(授業時数) 3 時間 使用教科書名 NEW HORIZON English Course 2 (東京書籍)

クラスの様子・特徴

男子10名、女子7名のクラスで、男女仲も良く、素直で明るい生徒が多い。何事にも意欲的に取り組む生徒が多いので、授業の雰囲気が良い。その内1名は発熱の為、2学期は欠席が続いた。9月から1名転入してきた。

問題の確定

4技能をバランス良く取り入れようという心がけているが、日本語を多く使用したり、リスニング練習が比較的少なくなりがちである。

予備調査

A 授業の観察

積極的に質問や意見を言う生徒が、クラスを引っ張り、明るく楽しい授業ができています。どんなことにも、楽しく取り組むことができ、お互いの助け合いもよくできる。分からないことがあっても、恥ずかしがらず質問をすることもできている。

B 生徒による授業評価

〔アンケートより〕
 4技能の中で一番苦手と思うものは何ですか。
 聞くこと…1名 話すこと…6名
 書くこと…9名 読むこと…0名
 ・文法がよく分からない。
 ・相手に伝わるように説明することが難しい。
 ・日本語にはない発音が難しい。等

C 学力データ

CRT結果(4月実施) 全国比(全国=100)
 聞くこと…111 話すこと…114
 読むこと…116 書くこと…124
 英検2006-1(Listeningのみ7月実施) 30/30
 平均点19.4

リサーチ・クエスト

自己表現力をつけるために、基本である「リスニング力」をどのようにつけていけばよいか。
 3月末までに、英検4級を7割以上取得することを目指す。

仮説・実践・検証

仮説1

教科書のTF、QAの内容と生徒への問いかけ方を改善すると、何度も本文を聞いたり読んだりして、深く考えるようになるだろう。

実践1

新しい内容を導入をする時に、英語でのQAから入る。質問内容は、ALTにも意見をもらった。Yes、Noだけで答えられる問題だけではなく、何度も読んだり、考えないと答えられない問題を含めて質問をした。付属のCDを活用し、生徒の理解度に応じて、6~7回程度は聴かせた。必ず聴かす前に質問を与えて、考えさせながら聴かせた。ペアで自分達の答えを確認させて、もう一度聴かせるなどして自信をつけさせるようにした。

検証1

リスニング力についてはきている。新しい学習内容の初めは難しいと不安な表情を見せるが、何度も聴くことで、「分かる」という実感を持つ生徒は多くなってきている。
 しかし、音読練習不足や、語彙の少ない生徒にとっては、苦手意識を払拭させることができていない。また、選択肢の中から選ぶ問題は容易に思えても、場面に応じての対話を理解することが難しいと思う生徒が多く、引き続き検証が必要である。

仮説2

ゴールイメージを知り、目的意識を持って音読練習に取り組むと、質の高い練習になるだろう。また、自主的な練習回数も増えるだろう。

実践2

①毎授業の最初に、音読筆写を導入した。
 ②意味のまとまりを意識して音読させるようにした。
 ③2学期初めに学期末のSpeaking Test(音読を含む)を予告し、意欲を高めることにした。
 ④話すことの評価基準を生徒に何度も説明をした。音読練習をする時も、リンキングやリズムやthとsやtなどの発音を大事に指導した。

検証2

①→早く書く為に、語句のまとまりを暗記するようになってきた。音読しながら書くことで語彙の定着を図った。②→まだ、自分で意味のまとまり毎にスラッシュを入れることは慣れていないので、今後指導を続けていく。③→早くから予告することで、以前と比べて自主的な音読の量は増えた。④→単語のつながりを意識して音読できる生徒が増えてきた。人前では大きな声で発音できない生徒への指導が課題だ。

仮説3

ペアワークを用いて、語彙・フレーズ等の定着練習や会話の練習をすれば、一人ひとりが聞いたり話したりする機会が増え、力をつけるだろう。

実践3

①毎授業の最初にペア活動のQAを位置付ける。(単語や語句を日本語から英語にする。間違えるとペアで交代する。その活動を2分間行う)語彙力をつけて、会話の時に全体のイメージをとらえることができるようにさせる。
 ②Talk & Talkのペア活動を行う。その後教師と会話をし、適切さと正確さを確認した。単なる暗記ではなく、考えて答えさせて、表現力を向上させるようにした。

検証3

①→ペアで楽しく、学習することができた。毎回2分間で何問答えたかをメモさせて、自己の記録を更新させることにより、意欲も高めるようにもできた。②→どのペアともに人間関係が良く、教え合いがよくできている。決められた答えはないので、難易度は高いが、辞書を用いたり、教師に尋ねるなどして、会話をすることができていた。今後も続けていきたい活動である。

研究の成果

2学期最後の授業で、英検のリスニング問題(2006-2)を7月同様に行った結果、18.5%の伸び率となった。(平均点22.64)生徒は英語がどんどん難しくなってきたとよく言うが、実力もついてきていることは確かである。

今まで、年間計画を立てているものの、生徒に説明はしたことがなかった。目標を持って取り組んでもらうために、2学期の初めに2学期末までにつけたい力と、英作文の課題と、評価基準を説明して、その用紙も渡した。その結果、学習意欲の高い生徒は課題に取り組み、力もついてきている。

今後の授業改善の課題

授業中に理解しても、宿題や家庭学習を怠ると英語の力はつかないだけでなく、理解できなくなり、嫌いになってくる。そうすると更にやる気がなくなり、勉強しなくなって悪循環だ。「簡単に分かる」授業ではなく、「努力して分かる」授業を目指し、そうすることによる勉強の楽しさを教えていきたい。生徒の能力を見極めて的確なアドバイスをし、楽しく分かる授業を目指していきたい。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

0887-73-0124